

薬剤業務の充実と環境改善で 魅力ある薬剤部門に

日本病院薬剤師会理事
広島大学病院教授・薬剤部長
松尾 裕彰 Hiroaki MATSUO



今年度より日本病院薬剤師会理事を拝命し、薬剤業務委員会を担当しております松尾です。誠心誠意努めて参りますので宜しくお願い申し上げます。令和4、5年度薬剤業務委員会では、本年の診療報酬改定において新設された周術期薬剤管理加算の算定推進を目的として、周術期医療における薬学的介入効果を実証する調査研究を実施している学術第5小委員会との合同で、周術期の薬剤業務の進め方の作成を行っています。また、来年度には、周術期薬剤業務の事例集をまとめる予定です。これらのプロダクトをそれぞれの病院の特徴に合わせて活用することで、周術期の医薬品適正使用に繋がることを期待しています。

超人口減少・高齢化社会の到来、情報技術の進展のなかで、病院薬剤師業務は、病棟活動、入退院支援、周術期管理、薬剤師外来などへ拡大してきました。また、医師の働き方改革の推進によっても、薬剤師へのタスクシフト・シェアが求められています。さらに、COVID-19の世界的パンデミックを契機として、医療デジタルトランスフォーメーション（DX）が推進され、オンライン診療、オンライン服薬指導、電子処方箋の運用が始まり、病院薬剤師を取り巻く環境が目まぐるしく変化していることを実感しています。今後はデジタル技術やデータ活用に精通し、薬剤業務への応用を実行できるDX薬剤師の育成が必要であると考えています。

このように拡大・多様化する薬剤師業務を確実に遂行するためには優秀な薬剤師の確保・育成が肝要です。一方で、薬剤師の地域偏在や病院志望者不足が理由で、確保が困難な病院も少なくありません。私の施設で欠員が埋まらない時期に、同僚の医師から「単に薬剤部に魅力がないからでしょ」と辛辣なコメントをいただいたことがありました。それ以来、薬学生や若手薬剤師にとって魅力的な薬剤部とすることを強く考えるようになりました。学生から見て魅力ある企業は、給与等の処遇が良く、労働時間が管理され休暇を取得しやすく、多様な働き方（ワークライフバランスの多様性）が受け入れられ、キャリア形成支援に手厚く成長機会が整っている企業と言われています。そこで、新人教育体制を構築し、従来分離されていた病棟業務と中央業務をすべての薬剤師が担当する体制に変更し、ジェネラリストの基盤のうえに専門的キャリアを積むことができる環境をつくりました。さらに、研究など自己研鑽を積む時間を確保できるように業務の効率化と増員を実施し、時間外労働を減らしました。以前に比べて欠員は減少してきましたが、結論付けるにはもう少し時間が必要です。

近年の診療報酬改定の内容からもわかるように、病院薬剤師の評価は確実に上昇しています。この波にうまく乗り、10年20年後に輝く病院薬剤師を増やすためには、私たち現役の薬剤師が、より安心・安全な薬物治療を患者に提供できるように業務をさらに充実させ、職場環境の改善を図り、学生が魅力を感じる薬剤部門に変わることが大切です。そうすることで、薬物療法の質向上における薬剤師の重要性が世間から十分評価され、将来それに見合う魅力的な処遇となることを望んでいます。